

委員会だより

先進的な

伊達市の食育センター

総務・教育委員会

本委員会は5月23日、教育行政での懸案事項に対する調査研究事項として、本年1月に供用を開始した「だて歴史の杜食育センター」へ行政視察に行きました。

施設建設の経緯としては、伊達市内17校と壮瞥町内3校の学校給食として業務を民間委託していた調理場が、築50年近く経過し衛生管理基準などを満たしていないことから、早急な建て替えが必要となりました。事業費は設計・建築費が約21億円、備品費などが約3億円、運営委託料が約23億円で合計47億円、財源は合併特例債を活用しており、事業は建設から運営までの民間ノウハウを活用できるPFI方式をとっていました。

新施設の特徴は、野菜下処理室などによる衛生管理の徹底、伊達産食材を3割使用するなど地産地消とおいしい給食の実現やアレルギー対応食の提供をしていること。

また、全国初となる食育レストランを併設して、市民に安価で給食を提供していること、災害時に3日分の炊き出しが提供できることなどであり、本市にとって非常に参考にできる先進地視察でありました。



(二瓶)

※PFI方式…プライベート・ファイナンス・イニシアチブ（民間資本主導）の略。民間のノウハウによって無駄なコストが省かれ、質の高いサービスが提供できるとされる。

地域に根ざした

特別養護老人ホームへ

生活・福祉委員会

本委員会は5月8日、本年4月に千歳町に開設した地域密着型特別養護老人ホーム「二ナルカ力」を見学しました。

このホームの特徴は、登別市で初の地域密着型施設であり、入所定員は29人以下で、地域と様々な交流を持ちながら自然な形で住み続けられる施設となっています。

居室はすべてユニット型個室となっていてプライベートも確保されており、医療との連携についても、特定医療法人三愛病院より定期的に医師・看護師が来ているとのことでした。

入居者の方に施設の感想を尋ねると、「住宅街の前にあり、施設にいる感じではなく自宅から遊びに来たような気持ちで、すぐに友達もできました。職員の皆さんも大変優しく親切に接してくれ、ここに来てとても幸せです。」と笑顔で話していました。

施設長に今後の地域交流について尋ねると、町内会・日本工学院北海道専門学校の寮生さんや多くの方との交流ができないか考えていきたいとのことでした。



(村井)

新たな製氷・貯氷工場が

建設されました

観光・経済委員会

所管事務調査として4月17日、登別漁港内に設置された製氷・貯氷工場の現地視察を行いました。これにより、水揚げされた魚類の速やかな鮮度保持が可能となり、既存の清浄海水導入施設とあわせ、漁港としての機能が一層充実しました。

水道グループからは水道料金改定に関して、水道事業運営審議会の答申の報告を受け、その骨子は、現状をかんがみれば料金の改定はやむなし、市民負担を考慮し、4年間必要最低限の改定率にとどめることとする。さらに、付帯意見としては、効率的な事業遂行を求めた内容で、今後は第3回定例会に水道事業条例改正案が提案される予定です。

また、本委員会は現在、重点活動テーマである全市観光を推進する調査を進める中で、登別温泉を軸とした本市の固有資源である登別・鷺別両漁港や、潜在的資源ともいえる森林山岳地帯の活用を目指しており、先進自治体の視察を行いました。



▲製氷・貯氷工場で製氷された氷

山岳観光は南アルプス市、漁港については、マグロの漁獲日本一を誇る焼津市、温泉観光地は長い歴史を有する湯河原町を視察し、市議会ホームページに視察報告書を掲載する予定です。

(若木)